

カルメル

霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院 復活のキリスト像

2020年4月

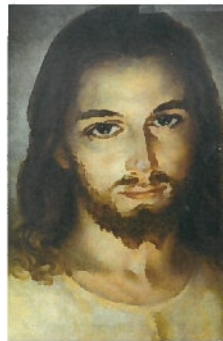
363号

【教会からの言葉】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

宇宙は、究極的に神の充満に達するよう定められており、その充満は、すべてのものの成熟の尺度である復活されたキリストによってすでに達成されています。ここに、他の被造物への暴君的で無責任な支配は何であれ拒絶する論拠があります。わたしたち人間の中に、人間以外の被造物の究極目的を見出すことはできません。むしろ、すべての被造物は、復活されたキリストがすべてのものを抱き照らして下さっている超越的充満のうちにあり、わたしたちとともに前進し、またわたしたちを通して、共通の到達点である神へと向かっているのです。知性と愛を授けられ、キリストの充満に引き寄せられている人間は、すべての被造物を創造主のもとへと連れ戻すよう召されています。

(『ラウダート・シ』83)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
北陸	33
通信深読お申込みのご案内	34
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	42
あとがき	43

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第二十七章 人を神から遠ざけるのは自己愛である

1 主

《子よ、あなたはすべてを受けのために、すべてを与える必要がある。ただ一つのものさえ、自分のために残してはならない。何よりも、あなたに書を与えるのは、自愛心であることを忘れるな。あなたがもっている愛情と執心しゅうしんによって、何でも手放しがたくなるものである。あなたの愛が、純真で、いさぎよく、節度あるものであれば、あなたは被造物の奴隷にはならない。持ってはならない物を持つとうとするな。霊的な損害を受け、内的な自由を失わせるものを持つとうとするな。あなたが自分自身と、持ち得るもの、望み得るものすべてを私にささげようとするのは、信じられないことである。

2 神のみ旨を探す

「なぜ、空虚な悲しみに押しつぶされそうになるのか？」(ミカ4・9参照)なぜ、不必要なわずらいに悩むのか？私のみ旨に忠実に委託しなさい。そうすれば、何の損害も受けなくてであろう。あれこれ探し求めて自分の楽しみとわがままを通すために、あの場所この場所にいたいと望めば、いつまでも安住の地を知らず、心労から解放されることはない。なぜなら、何にでも欠点があり、どこにでも反対者を見いだすからである。

3 イエスは私たちの平和

あなたが幸せを望むなら、この世の物を得ること、あるいは、それを増すことは役に立たない。むしろそれを捨てて、その望みの根を断ってしまったほうがよい。それは、金銭や財宝についてだけ言ったのではない。名誉へのあこがれについても、空しい称賛についても同じである。これらのことは、この世と共に過ぎ去るのだ。あなたのいるところは、あなたに熱意がなければ、堅固なとりで砦ではない。またこの世から求めた平和も、あなたの心が真の土台にもとづいていないかぎり、言いかえれば、私を土台にしていないかぎり、どんなに住居を変えても、心を善に改めることはできないであろう。住居を移る機会があってその機会を利用したとしても、あなたがのがれようとしたのと同じ事柄、いやそれ以上に悪いことを、新しい住居に見いだすであろう。》

主はよみがえられた！ アレルヤ！



復活されたイエスとマグダラのマリア

主イエスを復活させた方が
イエスとともに 私たちをも
復活させてくださることを
私たちは知っています。

Ⅱコリ 4・14



エマオの弟子たち

イエスは、彼らとともに泊まるために
中にはいられた。
そして、食卓に共につくと、
イエスはパンを取り、
賛美をささげて、それを割いて、
二人にお渡しになった。
すると二人の目が開かれ、
イエスであることに気づいたがその姿は
見えなくなった。

ルカ 24・29～31

ご復活の 果てしなくそしてさわやかな快い道で
イエスよ あなたはご自身をいのちのパンとされました
あなたの栄光に輝き また隠れた現存によって
あなたは わたしたちを捕らえられました
もし このパンが「日用のパン」となり
もし 毎日 あなたに飢え渴き
もし 聖霊によってあなたとなれるなら
そうです 主よ 来てください。*

伊従 信子 (いより のぶこ) ノートル・ダム・ド・ヴィ
* 「いのりの道」マリー・ユジェーヌ神父、聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美 (30)

くのり 彰
九里 彰

カインの嫉妬は、弟殺しという人類初の殺人罪を引き起こす。しかし、これが歴史的事実かどうかを脇に置けば、この悲劇は、原罪の結果として象徴的に理解することができる。つまり、神の命令に逆らい、禁断の木の実を食べることによって、人は神の意志を行なうのではなく、自分の思いのままに振る舞おうと、行動し始めるのである。それは、神から離れ、自分がこの世の主、世界の中心になろうとすることだとも言える。

したがって、目に見えるこの世では、他者がみなライバルとなる。他者が自分より高く評価されれば、嫉妬し、劣等感にさいなまれ、自分より低く評価されれば、優越感にひたり、うぬぼれることになる。

原罪以降、人間の意識は、この優越感と劣等感の複合感情（コンプレックス）の中に閉じ込められてしまったとも言える。こうして、人間の生活・活動のあらゆる分野で、この意識が絶えず働くことになる。カインの場合は、献げ物であったが、私たちは、生まれるやいなや、ごく幼い時から、すべてのことにおいて、親兄弟やお爺さんお婆さんから、隣近所のおじさんお婆さんや遊び友達から、学校の先生や職場の先輩から、絶えず評価され、だれが上だとか下だとか、言われ続けているのである。

実際、人間が人間である限り、この評価を度外視するわけにはいかない。社会はこれで成り立っているからである。能力のある者が上に立ち、能力のないものは上の者に従わなくてはならない。そうでなければ、社会は大混乱をきたすことになる。政治の世界では、首相が政治的な事柄にしろとうであるならば、国家は危機に瀕するであろうし、経済の世界では、社長に経営能力がなければ、たちまち倒産するであろう。また学校の校長に何の教育理念もなければ、教育レベルは低下し、ろくな人間が育たず、あらゆる分野において国家の将来があやぶまれることになる。要するに、だれもが首相や社長や校長になってもよいし、その可能性を持っているのだが、だれもがなってはならないのである。彼あるいは彼女が、首相として、社長として、校長としてふさわしいかどうか問われるのである。

この評価は、本来、その分野における能力のみでなく、全人的なものであるとも言える。洋の東西で、いわゆる「徳」として呼ばれてきたもので、単に頭が良い、その分野の技量に優れているということだけではなく、人間としての正直さ、誠実さ、人を包み込む温かさ、指導力、実行力など、人間的な諸価値すべてを含んだもので、客観的数値には表されないところのものである。要するに、その人が、人間として、人間という名にふさわしい人間であるかどうか問題とされるのである。それゆえ、この評価には倫理的な側面、宗教的次元が深く関わってくることになる。（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (145)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「自然と十字架のヨハネの関係」(7)

- c) 起こりうる不都合に備えて、次のように付け加えています。「ある人々が通常よく求めようとするような、感覚に媚びるような快い場所であってはならない。なぜなら、神に精神を集中する代わりに、感覚の快い楽しみや好みにひかれてしまってはならないからである」。
- d) 前述のことからの帰結、かつ警告。「そのために人気のない厳しさを感じさせる場所が良いのである。というのも霊が、目に見えるものにとらわれたり、妨げられたりしないで、しっかりと、まっすぐに、神に昇ってゆくためである。ある場合には、目に見えるものが、**霊を高めることを助けることもあるが、それはそうしたものを直ちに忘れ去って、神の内にとどまることができた場合のことである**」。
- e) これらの帰結を明確にするために、イエスの例を引いています。「それゆえ、私たちの主は、通常、祈りのために寂しい所を選ばれたのである（マタ 14, 23-24）。それらの場所は、私たちに手本を示すため、感覚にあまりとらわれず、心を高く神にあげる場所、たとえば、地上から高くそびえる山、それも通常感覚を翹わせるようなもの何もない所であった」。

これらの一連の箇所は、——特に c) と d) (強調された最後の部分) の箇所——は、実際、3S24, 4 に矛盾すると思われ得るかもしれないが、それは表面的なものです。十字架のヨハネは、実際、続けて、目に見えるものを通して、すなわち、自然や風景を通して、神へと昇ることができるし、また昇らなければならないと主張しています。快い穏やかな場所か厳しくとても荒々しい場所か選ぶとすれば、少なくともその場合には、結局、自然から神へと昇るための階段を作る方を選ぶでしょう。それゆえに、彼の「完徳の山」は、頂上への厳しく険しい細い道を望むのです。

反論せずに、とはいえ微妙なニュアンスをもたせながら、少し先の二三の章 (3S42, 1) では、三種類の敬虔な場所について、またそれらに関して意志はどのように関わらなければならないかについて語り始める時、香のように述べています。

(P. 九里訳)

受難の主日

(マタイ 27:11-54)

聖週間が始まりました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、世界中の多くの教会で聖週間が祝えない状況にあると思います。聖週間は、共同体皆でイエスのエルサレム入場を記念し、聖なる町でのイエスの過越の出来事を想起し、その救いの御業にあずかる時です。私たちの信仰の原点を祝う時であり、かつ、私たちの最終的な目標を見つめなおす時でもあります。新型コロナで、いつものように教会に集えなくても、家族や個人で聖書を読み、祈り、この難局を乗り越えていきましょう。

福音は、ご存じの通り、主イエスの受難朗読です。皆で役割分担して読むこの朗読は、あたかも、イエスの受難の場面に立ち会っているかのような臨場感があります。その中で、私たち自身が、ポンティオ・ピラトの面前で、イエスを十字架につける、と叫びます。これは、私たち自身もイエスを十字架につけた張本人であるという自覚を促します。カトリック教会のカテキズムには、「教会は、わたしたちの罪がキリストご自身を傷つけるという事実を念頭において、ためらうことなく、イエスの死の苦しみに対するもっとも重い責任はキリスト者にあると考えています」と書いてあります(598番)。私たち皆の、神に対する不忠実が、イエスを十字架の死に追いやったのです。

私たちは、この出来事を前に、自分の神に対する背きを思い、謙虚に救いを願いながら聖週間を過ごすべきだと思います。幸い、私たちから殺されるイエスは、私たちを訴えることなく、父にゆるしをとりなしてくださいませ。「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来た」と言われたイエスは、最終的に十字架上で両手を広げて、私たち罪人を招いているのです。自分のあやまちに胸を打ちながらも、勇気をもって十字架のイエスを仰ぎ見て、「本当に、この人は神の子だった」(マタイ 27・54)、「神様、罪人のわたしを憐れんでください」(ルカ 18・13)と言いましょ。

イエスは、そうやって、放蕩の道から帰ってくる私たちを待つ神として、十字架の上で両手を広げているのです。この方に立ち帰る人に見捨てられる人は誰もいません。「わたしは、わたしのもとに来る人を決して追い出さない」と言ってくださいませ(ヨハネ 6・37)。この方のもとに帰ることで、私たちは、イエスの罪と死に対する勝利、神の愛の勝利に深くあずからせてもらえるようになるのです。ゆるされ、愛され、立ち帰った者として、新しい子羊の食卓を囲み、「あなたがたに平和」という主の大きな憐れみに力づけられて、恵みと喜びに満ちた神の子の生活に導かれていきます。

(今泉健 神父)

A年 復活の主日

(ヨハネ20：1-9)

復活祭は、私たちの主のご復活のお祝い日です！イエスがもたらした死への勝利と永遠の命という人類の希望を祝います！声高らかに喜ぶ日です！復活祭は、「私たちが復活の民であり、アレルヤが自分たちの持ち歌」であるという歓喜のメッセージを伝えます。暗闇や疑いだけでなく死の墓石によっても私たちが押しつぶされることはないと告げるよい知らせです。私たちはむしろ、喜びと平和に満ちた人生を送るように招かれています。復活した主の現存のうちに、主にいつも同伴していただきながら生きることです。

復活祭は、私たちの人生に聖金曜日が訪れるたびに復活の主日がやってくることで、イエスがご自分の復活の力にあずかせてくださることを思い起こさせてくれます。私たちが、他者に愛を示すたびに、特に自分の敵を含む他者を赦すたびに、誘惑や弱さに打ち勝とうとするたびに、希望がかなえられていない中でも希望し続けるたびに、イエスのご復活の力にあずかることができます。つまり、復活祭のメッセージとは、罪、痛み、敵、そして死さえも私たちを滅ぼすことができないということです。なぜなら、キリストがこれら全てに打ち勝ったからです。私たちが救い主であるイエスを信じて信頼するならば、私たちも同じく勝利を収めるでしょう。

復活祭は、ペトロ、マグダラのマリアとイエスの他の弟子たちと同じ使命を私たちが持っていることを改めて示します。イエスは、ご自分のメッセージを伝えるメッセンジャーになるようにと私たちを招きます。福音書では、「走る」大切さが描かれています。マグダラのマリアは走り、ペトロも走り、ヨハネはペトロを追い越して走りました。主への愛は、気持ちをせきたてられるものなのです。キリストとそのご復活の力を体験したければ、私たちは、主との関係性において湧き上がる心を持つべきです。祈りや主と一致する瞬間において、いつも忠実で速やかに動きましょう。また、神の子どもとして自分たちに与えられた務めや責任を忠実に、かつすばやく果たせますように。

復活された主における愛する友の皆さま！どうぞ幸せな復活祭を！アレルヤ！キリストの平和が、あなた方の心と家庭を支配しますように。

(Sr. Paulina)

復活節 第2主日

(ヨハネ 20 : 19 - 31)

復活節第2主日は、「神のいつくしみの主日」です。私たち一人一人を限りなく愛して下さる「神のいつくしみ」に私たちが心を開き、ともに歩んでゆくことができます様に。

さて今日の福音は、週の初めの日に起こったイエスの復活の状況が描かれています。イエスが十字架につけられ亡くなった後、弟子たちはユダヤ人を恐れ家に閉じこもっていたわけですが、復活したイエスはこの弟子たちにご自身を現して、弟子たちを変えてご自分の使命を告げ知らせるものとなさいます。

イエスは、あなたがたに平和があるようにと重ねて言われ、ご自身の息を弟子たちに吹きかけられ、その平和を与えて下さいました。そして「聖霊」を受ける様にと言われ、聖霊降臨の日に弟子たちは大きな恵みを受けることになります。そして罪を赦すという大きな役割一人を赦すとき神が働かれ罪が赦される—その赦しの道具となってゆきます。

ところでイエスが弟子たちに現れたとき、十一人の弟子の一人であるトマスだけは、その場に居合わせませんでした。他の弟子たちの元に戻ったトマスは、他の弟子たちが

「主を見た」という話を聞いても信じることはできませんでした。

その様な状況の中で、それから8日の後、すなわち「主の日」イエスはそのトマスにお現われになられ、それだけでなくトマスが望んだこと、手に釘の跡を見、指を釘跡に入れ、手をわき腹に入れることをする様に言われました。そして信じていない者ではなく、信じる者になりなさいとトマスに仰ったわけです。

週の初めの日、主の日。私たちは教会に集まり、みことばを聴き、主の食卓を囲んで礼拝を捧げます。弟子たちの前に現れて下さったご復活のイエスの姿は見えませんが、神のことばを聴き、信じる者となってゆければと思います。見たかどうかは重要なことではありません。そうでなく私たちが聞く、神の言葉に耳を傾けることが大切なのです。

イエスは、トマスに語り掛けて下さった言葉を、今、私たちに語り掛けて下さいます。「見えないのに信じる人は、幸いである。」と。主のご復活の喜びのうちに、見えない主を信じ、幸いな者となってゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

復活節 第3主日 (A)

(ルカ 24 : 13 - 35)

ご復活後のイエス様のご出現について、聖ルカの福音で読みます。これは二人の弟子たちのエマオへの物語です。二人は、主のご受難、死、ご復活の後、自分たちの村エマオに向かって、エルサレムから7マイルほど歩いて離れていったところです。普通の旅が霊的旅に変わり、悲しい旅が喜びの旅に変わります。

人生の中で私たちが忘れてはならない最も大切なことは、「イエス様は迷った者を探し、見つけてくださる」ということです。イエス様は、エルサレムから歩いて離れていく二人の弟子が悲しんで、失望しているのに気づいてくださいます。弟子たちはイエス様と対面し、その存在で変えられ、深い悲しみから解放される経験をすることができました。しかし、弟子たちはイエス様に気づいていません。彼らは信仰が足りず、復活を理解する力が欠けていました。イエス様は、どのようにして神の約束を信じるか学ばせるために、徐々にご自分を現していきます。私たちは、自分が失敗とと思っていることや迷っていることが、神の目にはそうではないということはこの二人の弟子たちから学ぶことができます。実は、何かより大きな至福への祝福となるかもしれないのです。

イエス様は、「物分かりが悪く、心が鈍く、預言者たちの言ったすべてを信じられない者たち」と言われました。この言葉で弟子たちの目は開かれます。イエス様は癒しの言葉の力を使って弟子たちの信仰を目覚めさせます。イエス様はみことばを語り、最後にパンを裂いてご自分を現されます。パンを裂き、誰かと食事を共にすることは、非常に友好的で、親密な愛の意思表示です。パンを裂き、それを与える聖なる奉仕は目を開き、目に見えないところにイエス様が消えても、イエス様を認めています。弟子たちはお互いに言います。「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、私たちの心は燃えていたではないか？」

キリストにおける親愛な兄弟姉妹の皆さん、聖なるミサのとき、いつでもこのことを思い出しましょう。ミサは、主との親密な出会いとなります。私たちの人生をキリストと分かち合うこの親しさによって、私たちはキリストを知ることになり、死と罪に打ち勝たれた私たちの真の復活の主として、キリストを体験するようになります。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 4月

見ないのに信じる人は幸いである。

(ヨハネ 20・29)

ヨハネの福音書には、使徒たちやマグダラのマリア、また他の弟子たちがそれぞれ復活されたイエスと出会う様子が描かれています。復活されたイエスは、十字架につけられた傷あとをもってご自分を現され、弟子たちの心を再び、喜びと希望へ向けて開こうとなさいます。居合わせなかった使徒トマスに、復活したイエスと出会った皆は、その出来事をこそって語ります。自分たちの体験した特別な喜びをぜひ伝えたいに違いありません。けれどもトマスは、聞いただけではこの証しを受け容れることができません。自分の目で直接イエスを見て、触れたいというのです。

彼の望みはまさに数日後に叶います。弟子たちの集うところにイエスが再び現れ、ついにトマスもそこに居て出会うことができます。トマスは復活されたイエスへの信仰を告白し、全面的な信頼の言葉を叫びます。「わたしの主、わたしの神よ！」するとイエスはこう言われます。

「見ないのに信じる人は幸いである」

この福音書は、イエスの生と死、復活を目にした証し人たちが世を去ったのちに記されたものです。福音の伝承は、当然ながら、後継世代が語り継いでいったことが土台となりました。こうして教会の時代が始まりました。神の民がみ言葉を実践して生き、語り継ぎ、イエスのメッセージを告げ知らせ続けるのです。

私たちもまた、み言葉とそれを生きる人々の証しを通して、イエスに、福音に、信仰に出会い、そして信じたのです。だからこそ「幸い」なのです。

「見ないのに信じる人は幸いである」

このみ言葉を生きるために書かれた、キアラ・ルービックの勧めを思い起こしてみましょう。

「イエスはあなたの心に、ある確信を刻みつけようとなさっています。それは、ご自分と共に生きることのなかったあなたやすべての後からくる人々が、使徒たちと同じ体験ができるという確信です。あなたは決して、直接イエスを見た人たちに劣ることはない、イエスは伝えたいのです。あなたには信仰があります。それこそが、イエスを『見る』ための新しい術（すべ）なのです。

信仰によってあなたは、イエスを身近に感じることができ、イエスのことをもっと深く理解でき、心の奥深いところにおられるイエスと出会えるでしょう。

信仰によってあなたは、イエスのみ名のもとに二人、三人のきょうだい
がひとつになっているところに、またイエスを継承する教会の内に、イエスの存在を見出すことができるでしょう。（中略）

このイエスのみ言葉は、あなたの信仰をもっと奮い立たせ、霊的に成長するために目に見える支えやしるしに頼らないようにと、招いています。イエスが遠くに感じられても、あなたの人生において、また長い歴史のうちに、キリストが現存することを疑わないようにと、呼びかけています。（中略）

どんな困難な状況にあっても、大変な逆境に苛まれているときにも、ご自分の愛を信じてほしいと切に望んでおられるのです。」¹

オーストラリア出身のアンのことをお話ししましょう。アンは生まれてすぐに、重い障がいを負いました。

「思春期の頃には、自分の抱える障がいのあまりの重みに、なぜ私は生まれてすぐに死ななかったのかと自問しました。そんなとき、いのちの言葉を生きていた両親は、いつも同じ答えをくれました。『アン、神さまはおまえを限りなく愛しているんだよ。おまえのために特別なご計画を用意しておられるんだ』と。

両親は、私が身体的限界の困難さに捉われなくて、神様が私たちになさったように、自分から先に人を愛するよう助けてくれました。そのように努めるなかで、自分の周りが変わっていきました。少なからぬ人が私に向かって心を開いてくれ、また彼らの方もさらに、他の人に対して同じようになっていくのを目にしました。

父は自分が亡くなってから読むようにと、私にメッセージを遺してくれていました。開いてみると『私の夜に闇はない』とだけありました。これはまさに私の日々の体験です。自分の傍らの人を愛し、仕えることを選ぶたび、闇は消え失せ、神様の私への愛を味わうことができるのです。」

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ C. ルービック 1980年4月のいのちの言葉より

「人類の歴史は病原菌との闘いの歴史なのだ」と、こんな言葉を頻繁に目に、耳にすることとなりました。

今、私たちは今年初め頃に出現した新型のコロナウイルスという未知の病原菌と、力を尽くして闘っています。

たしかに歴史を振り返れば、ペスト、天然痘、マラリア、スペイン風邪、エボラ出血熱、SARS、新型インフルエンザ、それからMERSと、次々とやって来る未知の病原菌感染症との闘いは、並大抵のことではありませんでした。

大昔の時代から2020年の今日まで、それは人間としてのあらゆる面のあらゆる意味において、限りない悲痛の歴史であり、そしてまた人間の叡智の偉大な歩みであったはずです。

今、こうして三月になってお雛祭りを迎え、桜の開花予報を耳にしながら、世界中に感染者が毎日増え続けるのを知らされながら、一人一人の日常生活の周辺は公共の対策や個々の自衛等々で大騒動となっています。 テレビ、新聞等の報道は連日コロナウイルス満載であり、特にテレビ番組での専門家を交えての情報交換は白熱し、私はさまざまな情報の波にもまれながら自分なりの取捨選択をしながら、一日の大半を画面に目を向けて過ごすこともあります。

最も危機を自覚し注意しなくてはならないのが高齢者で、しかもその中でも80代の年齢層で基礎疾患罹患患者の重症化は格別とされているのですが、私ども夫婦はここに全てそのまま当てはまります。 言ってみれば感染したら最後、これはもう・・・と、医療崩壊という怖い言葉を聞き想像しつつ、最終の状況を考えて入れておかなくてはならないと、今は思わざるをえません。

夫はデイサービスを休むこととしました。 私もスポーツクラブを遠慮して極力人と会うことをなくすよう努め、日日は文字通りの「つがいの巣籠もり」状態となっていますが、心のどこかにはほんとうに万が一のことを思い、正直のところ少しあわてて最期に備えての事をなしたりもあったことでした。

そんな折に教会から公開ミサの中止という緊急連絡が入り、びっくり仰天でしたが、これであらゆる意味での備えと言っていいような、確固とした新しい態度が心の内に生まれたようでした。

人が生存し生活してゆくときのあらゆる局面に、今、危機、困難、弊害が生じていて、心が痛み、心が騒ぎ、戦戦兢兢としているのですが、しかし、そうして

いながらもふと気が付くことがあります。心の深みに何かまったく別の方向からの繊細な促しが感じられ、奥底をノックするようなかすかな音を私の魂は聴き覚えることがあるのです。

たとえば今、アルベール・カミュの「ペスト」が大変に売れているという新聞記事に触れたとき、心の内に去来した光のような、温もりのようなもの。

たとえば今、窓から外を見やるとき、青空に映える満開の大島桜に生命の希望を思い知らされるような深いひととき。

たとえば今、ベッドに入り枕に頭がつくと習慣として唇をついて出てくる詩篇「深き淵より」の、遠く切ない確かな応答を全く新しく聴くこと。

私たちは生きている時代のこの年月の中に、思いもよらないこと、耐え難い理不尽なこと、力の及ばない哀切なことに幾たびかは見舞われるのですが、私の八十余年の人生を思い返すとき、第二次世界大戦、東日本大震災・・・ここに次いで現れた新型コロナウイルスは、そういう人生観を変え、生き方を変えるほどの大きな出来事として、私にはなぜか初めから予感され、今、(これを書いている今日は3月10日です)やはり世界中がそうになって来ているという思いに駆られおののく思いでいます。

オリンピックはどうなるのか気になります。観客のいない異様な雰囲気の大相撲をテレビで観ました。輸血用の献血の減少は心配でなりません。夫は輸血のお陰で助けられたことがあるのです。マスクの不足は何かならないでしょうか。特に医療現場には。パンデミックとは如何ほどの被害をもたらすものであるのでしょうか。

今、私たちはそれぞれの置かれた現場にあって、自分に与えられた務めのそのひとつひとつに、心を魂を知を尽くすことと思っています。

それは神さまをお愛しすることに他ならないでしょう。

今もいつも世の終わりまで共にいてくださる主よ ——
来てください

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年3月7日

総長メッセージ：

イエスの聖心の聖テレジア・マルガリータ帰天250周年を記念して



今年2020年3月7日に私たちはフィレンツェの女子跣足カルメル修道会のイエスの聖心の聖テレジア・マルガリータ帰天250周年をむかえています。彼女は、1747年7月15日に13人の兄弟姉妹の2番目に生まれ、カルメル山の聖母の祭日にアンナ・マリアの名で洗礼を受けました。父親のイグナチオ・レディは文化の伝統と敬虔な信仰を持つ高貴な家系の出身でした（その先祖には、17世紀に最も重要な自然科学者、詩人で作家のフランシスコ・レディがいます）。このイグナチオは、アンナ・マリアにとって最も大切な最初の指導者でした。彼は彼女に神の認識、祈りの実践、徳の習得についての手ほどきを教えました。彼女は、彼が父親の優しさと愛情と共に、鋭敏な知性を兼ね備えた人であることを体験しました。

跣足カルメル修道会では、聖テレジア・マルガリータの典礼歴年による記念日を、聖女が17歳でフィレンツェの聖テレジアですが修道院の門をくぐった9月1日に定めています。彼女は1770年3月7日の帰天日まで、そこにわずか5年足らずでしたが留まることとなります。

「イエスの聖心」、これは、聖女の修道名であり、生涯の行程、そして主要なインスピレーションを要約するものです。イエスの聖心への単純で力強い信仰は、聖テレジア・マルガリータの全生涯を貫いています。ジャンセニズムの傾

向の強いトスカナ地方の中にあっても、少女時代のアンナ・アリアは叔父のイエズス会司祭ディエゴ神父や聖マーガレット・マリア・アラコックの生涯に関する読書の影響のおかげで、主イエス・キリストの受難と栄光の現行性を核心とする霊性、“キリストは今も私たちが愛し、喜び、苦しんでおられる”を養い育てました。

聖女への信心が人々に浸透しているのは、キリスト者の信仰生活が主イエスの苦難と喜びにあずかりそれを生きることという信条に基づいているからです。聖テレジア・マルガリータが残した最も有名な文章、“1768年の霊操の決心”の中で、この若いカルメル会修道女は、キリストの聖心に結ばれているときにのみ、自分の喜びや苦しみが意味をもつという基本的な信仰の道に従いました。この道は、完全性をめざすものと言うよりは、信仰に身を委ねることでした。まさにこのためにこそ、聖テレジア・マルガリータは、愛が、唯一、めざすゴールであると言明した後に、自問しています。この生涯のプロジェクトに決断し、忠実に取り組むには何が必要でしょうか、と。答えは、“神だけが私の内に働かれるように神に自分のすべてを委ねることです。”

聖テレジア・マルガリータの体験は、自己放棄、謙遜、常に深める奉献、御父の愛の働きへの委託の確固たる態度により特徴づけられています。

聖テレジア・マルガリータがよく知れられようになった出来事は、“神は愛である”の恵みでした。この恵みには病室係助手と言う単純な、しかし、苦勞の多い任務によって準備されています。この任務には、実際に修道誓願と共に始められ、主を愛したい彼女の止められない強い望みを表す最も具体的な奉仕でした。託された病室の仕事以外にも、絶え間ない病弱者たちを看る共同体での奉仕がありました。彼女について多くの証言は、繊細な慈愛で奉仕を寛大に行う彼女の自然でスピリチュアルな気質を表しています。彼女の神秘的な恵みは、彼女と深い関りをもった修道女たちのひとりの列聖調査の供述証言に、次のように記されています。

『1767年、私は、彼女が部屋を出ると気づかれないようにそっと彼女のあとをつけ、そのとき彼女の行動に重大な変化を見つけました。彼女の顔全体は光に照らされて放心した恍惚のような状態で、彼女が澄んだ静かな声でラテン語のことば“神は愛である。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられる。”を発するのを、私は聴きました。彼女はその言葉をくり返して歌隊席に行き聖務を終えてからも、誰にも聴かれていないと思われるときに何日間も同じ調子でそのことばを発していました。もはやその声が他の修道女たちにも聞こえるようでしたが、彼女はそのことばへの思い

に感極まっています人に聴かれているとは思ってはいないようでした。』

この日から、この若い修道女テレジア・マルガリータは何人かの修道女たちにあとを付けられるようになりました。修道女たちは彼女に起こることを確かめ、聖霊ご自身が彼女の解き放たれた心に宿らされた言い表せないため息を聴きたくてあとを付いて行きました。事実、修道女たちは、聖テレジア・マルガリータが、その恵みにあずかった体験から、新たな行動をとり始め、今までの行程を変え新しいゴールを明確にしたことを立証しました。それは燃える神の愛に所有されることでしたが、しかし、すぐあと彼女はその愛の炎は暖め照らすだけではなく、彼女のすべての護りと所有するものが奪われるところまで燃え尽きる体験をしたのです。

彼女は霊的指導司祭の博識で賢明なイルデフォンソ ディ S. ルイジ神父宛ての手紙に、晩年の2年間は自分を越える神秘の暗夜の只中にいる遭難者の助けを求める叫びであったと書き記しています。彼女は霊的生活にかかわる暇はないほど奉仕に専念するよう成長する一方、他方では自分に示された神の愛に応える強さが極まるほど貧しく無力である思いに浸っていました。手紙には、冷淡、無感覚、卑下、嫌悪のことばが頻繁に彼女の霊的状况を表し記されています。

“私は私の善き主へのたび重なる無関心にもかかわらず、主は私のところをいつも探し求められるのをお止めになりません。”

これが、聖テレジア・マルガリータがたどり着いた成熟した、革新的な信仰のすべてです。単なる知的な信仰の真理への同意ではない、このような同意は、真理の必要部分であるにしても。彼女が、確証を自分自身の内ではなく、神の内を探し求めた態度こそ信仰です。彼女はその信仰に安らぎを得、より完全な自己放棄の十字架において生涯の最後の日まで信仰が深まるほど暗くなる闇にとどまりました。信じることと愛することはいつも共にあり同じゴールに向かい、それらは二つの傾向を有しながら同じ純真な神の信仰をもち、神への憐れみと慈愛の希望がこの二つを固く結んでいます。

聖テレジア・マルガリータの証言は、私たち21世紀の跣足カルメル修道会に属する全ての者にとって、神との一致とは、会憲に述べられているように世界の歴史における神の現存であり、今もこれからも私たちが向かう召命のゴールである隠された一致を思い起こさせます。それは目には隠されている。その一致の様相は特異な神秘的状況や肉的宗教心が求める目立ったカリスマではなく、実に普通の召し使える自己譲渡の形、イエスが生涯の始まりに隠れて過ごされたのと同じものです。それは日々ひとつひとつを奉げていく人間が神によって新たにされ、イエスの傷に繋がりながら、ついに栄光の復活の姿に変え

られる確信をもって、自己のすべてを神の御手に捧げる姿です。

この服従は、神ご自身が人間のこころの深みに置かれた偉大な望みの結果で、その超越性を無くしてはキリスト教、さらに観想修道者への召命は、意味を失ってしまいます。

最近書かれているように、“何でもやるがまだ十分ではないと知りつつ、この弱く不安定な行動からのみキリスト教は現代人に語りかけ、聴くことができる。それは傷つきやすいところに触れるからである”

聖テレジア・マルガリータの証言は、私たち21世紀の跣足カルメル修道会に属する全ての者にとって、神との一致とは、会憲に述べられているように世界の歴史における神の現存であり、今もこれからも私たちが向かう召命のゴールであり隠された一致であることを思い起こさせます。それは目には隠されていて、その一致の様相は特異な神秘的状況や特に修道者が求める目立ったカリスマではなく、実に普通の召し使える自己譲渡の形、イエスが初期のころに過ごされたのと同じものです。それは日々ひとつひとつを奉げていく人間が神によって新たにされ、イエスの傷に繋がりながらついに栄光の復活の姿に変えられる確信をもって、自己のすべてを神の御手に捧げる姿です。

この服従は、神ご自身が人間のこころの深みに置かれた偉大な望みの結果で、その超越性を無くしてはキリスト教さらに観想修道者への召命はなおさら意味を失ってしまいます。

最近書かれているように、“保証のない不均衡で、十分ではないとの自覚の中にあっても、わたしたちのあるがまま、すべて捧げる行動から出発してのみ、キリスト教は現代人に再び語りかけることができ、耳を傾けられるものとなる。なぜなら、その時、心の琴線に触れるからです。”

(小宮山延子 訳)

糸巻き棒からペンへ(52)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

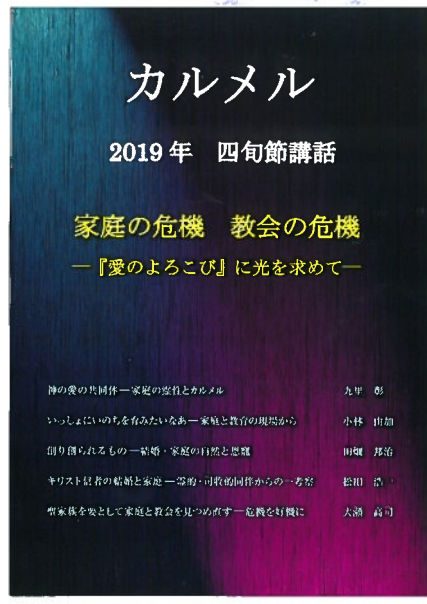
他方では、謙遜も私たちの限界を受け入れるよう助けてくれます。これには、決して病的な罪責感が伴っていません。それどころか、自分の弱さを健全な形で受け入れることは、神にのみ信頼するよう私たちを導いてくれるのです。「娘たちよ、悪魔によって過去の罪の重さに対する大きな不安がもたらされるような謙遜には注意してください。『私はご聖体に近づくにふさわしい者だろうか』、『私は（ご聖体を拝領する）準備をよくしたのだろうか』、『私は善良な人々の間で生きるような者ではない』などと。これらのことは、自己認識と共にもたらされる落ち着きやお恵みや喜びが訪れる時に、判断されるべきです。しかし、靈魂の中に大騒ぎや不安があり、余裕がなくなり、考えを落ち着かせることができないならば、それらは誘惑であり、謙遜と見なすべきでなく、謙遜から出ていないと思ってください」（『完徳の道』エスコリアル版 67, 5）。

私たちが自分自身や自分の個人的な歴史と和解しながら生きることは、他者をありのままに受け入れることができるための土台です。テレジアは、他者を裁くことに（他者の限界について愚痴をこぼすことについてはなおさら）時間を費やしてはならないと主張しています。とりわけ院長は、修道女各自の独自性を尊重し、各人がその職務や年齢に関わりなく、栄養を取り、必要に応じて必要なものを受け取ることを保証しなければならないと。

特に病人に対しては、『会憲』で確立されることになりますが、細心の注意を払って世話しなければならないでしょう。「病人は、心からの愛と快適さと憐れみをもって手当されるべきです。リンネル（すなわち、上質のシーツ）や良いマットレスがあてがわれるべきで、できる限りの清潔さと思いやりで世話されるべきです」。そしてこう付け加えています。「必要ならば、健康な者に必要なものが、病人にも突然必要となるかもしれません」。聖女は、修道女が病気である時、食べ物や時間割の問題で後ろめたさを持つことを望みませんでした。「肉を絶えず食べる必要があるならば、四旬節であろうと肉を食べることは、問題ではありません。必要があるならば、それは会則には反せず、そのことについて厳しく扱われるべきではありません。私は主に、彼女たちに徳を、特に謙遜と相互の愛——これが真に必要なものですが——を与えてくださるようお願います」（ソリアのカルメル会修道女への手紙。1581年12月28日付）

(P. 九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2019年 冬号 No.375

《祈りを学びたい人のために》**
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(8)
 —祈りを始めるために(4)主の祈り(後編) 片山はるひ
 パウロの祈りに学ぶ(4)神の力の場である人間の弱さ
 —コリントの教会への第二の手紙 田畑邦治
 エディット・シュタインが教える祈り(III) 須沢かおり
 現代社会において 祈りの人となるには(4) 九里 彰

 風に吹かれて(22)—虫がよすぎる 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(8) 伊従信子
 教会の「もてなし」の使命—国籍を超えた神の国をめざして
 ポール・フェルナンデス
 カルメル会の会則に見る
 アシェシスと修道生活(8) 九里 彰
 霊的研究会講義録(6)—聖書・祈り・愛について
 奥村一郎

2019年 特集号

「家庭の危機 教会の危機」
 —「愛のよろこび」に光を求めて—
 神の愛の共同体—家庭の霊性とカルメル 九里 彰
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加
 —家庭と教育の現場から
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畑邦治
 キリスト信者の結婚と家庭 松田浩一
 —霊的・司牧的同伴からの—考察
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す 大瀬高司
 —危機を好機に

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。
 〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax:03-3704-1764
 又は E-mail: hisa_ima520@ezweb.ne.jp



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

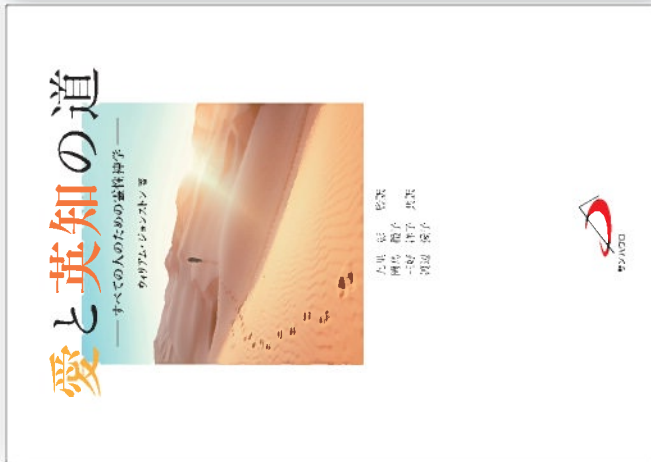
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるからたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5

Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

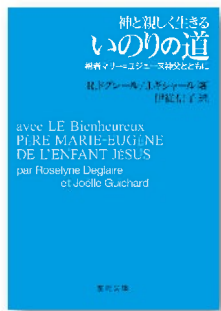
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

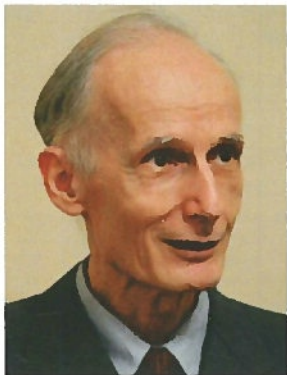
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月9日(木) 夕食～4月12日(日) 朝食《講話なし、各食事つき》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時)

5月30日(土)～31日(日) カルメル会士

7月 4日(土)～ 5日(日)

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

4月15日(水) 5月20日(水) 6月17日(水) 7月22日(水)

9月16日(水) 10月21日(水) 11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

4月18日(土)～19日(日) 今泉健神父

7月11日(土)～12日(日) 今泉健神父

10月24日(土)～25日(日) 今泉健神父

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

奉獻生活者のための黙想会（初日17時～最終日朝食） カルメル会士
8月 1日(土)～8月10日(月)
8月16日(日)～8月25日(火)
12月27日(日)～1月 5日(火)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
5月15日(金)～17日(日)
2021年 3月26日(金)～28日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士
11月 6日(金)～ 8日(日)

特別黙想会(初日20時～最終日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月13日(金)～15日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

カルメル会聖人に学ぶ黙想会

一日黙想会

祈りとの困難、アビラの聖テレジア

完徳の道 :第 23 章～26 章に学びましょう。

人間は、生きてると、順境の時もあれば逆境の時もあります。困難な状況に陥った時に神を信頼してお祈りすることで不思議と状況が開いていくことがあります。この困難を乗り越えるためにアビラの聖テレジアは、完徳の道を通して私たちに道を示して下さいます。そんな中でも恐れることなく、神の力に信頼して道を歩くことができますよう祈りの時を過ごしましょう。

*****:*****

日時: 2020年4月15日(水曜日)10時～16時

場所: 上野毛カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導: ジョニー神父 (男子カルメル修道会)

会費: 3500円(昼食付)



Terese de Jesus

*お問合せ・お申込み

〒158-0093東京都世田谷区上野毛2014-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

E-mail mokusou@carmel-monastery.jp

一泊黙想会

神と親しく過ごす

あわただしい日常を離れ、しばし沈黙と祈りのうちに過ごしましょう。
聖書のみことばとそれにまつわる講話を聞き、ミサや秘跡に触れながら、
神との親しさを取り戻す黙想会としたいと思います。

指 導 : 今泉 健 神父

日 時 : 2020年4月18日(土)~19日(日) 16時開始~翌日16時まで

場 所 : カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

会 費 : 6,500円



* お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 FAX. 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

真のキリスト教徒となるには



日 時 : 2020年5月15日(金) 20時 ~ 17日(日) 16時

場 所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対 象 : 青年男女(16歳~35歳まで)

定 員 : 20名

費 用 : 一般 10,000円 学生 7,000円

締 切 : 2020年5月8日(金)

指 導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電 話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会
* * *
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
4月4日に予定しておりました
「講話と祈りの集い」の開催を現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<https://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
リピータの会 @那須	4/24(金)14:00- 26(日)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
ダイアリー	5/2(土)17:30- 6(水)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖 母修道院	同上
サダナ I	5/21(木)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	同上
沖縄 I & アドバンス	5/28(木)17:30- 31(日)16:00 ※通いも可能です	Fr植栗	愛楽園教会 (名護市済井出)	宮城(みやぎ) 鈴代 TEL 090-4471-6456 suzuyo.t.m@gmail.com
沖縄 フォローアップ	6/1(月) 9:00-17:00	Fr植栗	聖クララ修道院 (与那原町与那原)	同上
入門 C	6/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※
自己を知る *1泊2日×2= 合計4日	6/13(土)10:00- 14(日)16:00 6/20(土)10:00- 21(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I : サダナ 1 において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることで心の静まりを入り口として、深みに進みます。

◆入門 A.B.C : 本来は、宿泊して営む「サダナ 1」の内容を分割して体験していただくプログラムです。

◆ダイアリー : 沈黙のうちに自分の生涯を観察し、神からいただいた宝を見出そうとするものです。

◆自己を知る : 知識だけではなく、エクササイズやゲームなどの体験を通して自己を知り、また、分かち合いによって心を開き、他者をありのままに受け入れることを学ぶ為のワークショップです(祈りのプログラムではありません)。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

時間：以下の木曜日

14：00～16：00（講話と念祷）

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

【2020年】

ウィリアム・ジョンストン著『愛と英知の道—すべての人のための霊性神学—』
(サン・パウロ)を少しずつ味わいながら、共に祈ってゆきましょう。

1月23日—序論— 終了

3月26日—第一部—キリスト教の伝統 終了
—第1章—背景（1）—

5月28日 第2章 背景（2）

7月23日 第3章 理性対神秘主義

9月24日 第4章 神秘主義と愛

11月19日 第5章 東方のキリスト教

12月17日 第6章 愛を通して生まれる英知

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）

9月12日（土）～13日（日）

11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

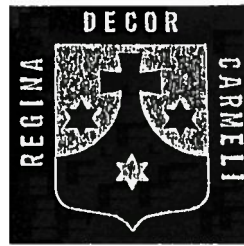
主のご復活祭おめでとうございます。

今年の四旬節は、始まって以来、新型コロナウイルス感染でほぼ埋め尽くされています。ミサの中止、集会の中止の中の四旬節。今の時点で、復活祭を共に集って祝えるのかどうかの見通しありません。

しかし、メタノイアをとおして復活への招きは力強く響き続けています。「メタノイア(回心)」は、「アイノタメ」に、すべてを根底から見直し、考え方を変えることへの招きです。

折しも、世界全体が、産業活動や経済活動において立ち止まらざるを得ず、人の行き来が途絶え、一見、死の様相を醸し出す中で、真実な復活への道は、単なる再開ではないはず。地球温暖化防止対策の重要局面を迎える今年、世界中一人一人が新たな生き方へと変容することに招かれているのだと思います。フランシスコ教皇様が「ともに暮らす家を大切に」と呼び掛けた『ラウダート・シ』の呼びかけがあらためて響いています。

「わたしたちは後続する世界の人々に今成長しつつある子どもたちに、どのような世界を残そうとするのでしょうか。それは、この世界でわたしたちは何の為に生きるのか、わたしたちはなぜここにいるのか、わたしたちの働きとあらゆる取り組みの目的はいかなるものか、わたしたちは地球から何を望まれているのかといった問いです。ですから、もはや将来世界のことを考慮すべきだと言及するだけでは足りません。わたしたち自身の尊厳こそが危機にさらされていると理解する必要があります。」(160)



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **4月28日(火) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456